
異端の魔女の物語

黒空レキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異端の魔女の物語

【Nコード】

N0870BA

【作者名】

黒空レキ

【あらすじ】

かつて『異端の魔女』と呼ばれ、その許されざる罪によって火刑に処された娘がいた。やがて彼女は転生する。なんの因果か、前世の記憶を持ったままで。

プロローグ

見上げれば、胸が痛くなるほどの青い空。
見下ろせば、うごめく黒い群衆。

彼らの顔に浮かぶのは憎悪。

怒り、悲しみ、哀れみ、嘲笑、侮蔑、恐怖、好奇。

その視線を受けながら、ゆっくりと目を閉じる。

隣で罪状が読み上げられれば、観衆から聞き取れないほどの罵声
が飛ぶ。

だれかが投げた腐りかけの果物が髪や服を汚した。

これ以上の暴動が起こる前にと、慌てた様子で刑の執行が告げら
れた。

痛みはない。

熱さも感じない。

すべての感覚はすでに麻痺し、あるのは空虚な意識だけ。

そして、私は炎に包まれながら密やかに笑った。

ああ　これで終われるのだ、と。

最後の瞬間、懐かしい声が聞こえた気がした。

けれど、それを確認する間もなく、私の意識は闇に吞まれた。

1話 転生と決意

サラサラと。

優しく髪を撫でる心地よい手。

何度も、何度も。

そこに悪意はなく、愛おしむ気配だけが存在する。

嬉しいような、くすぐったいような、久しく忘れていた感覚だった。

忘れて、いた……？

そうだ。

これは幼いころにほんの一時向けられたことがあるだけで、ずいぶん長い間、思い出すことすらなかったものだ。

そこまで考えて、ふと思いを止める。

待つて。待つて……では、これはだれのもの？

『私』を許容し、認めてくれる存在など、もうどこにもいない。いないはずだ。

彼らの期待を裏切った瞬間から、私は憎悪とさげすみの対象となつたのだから。

それを思うと胸が痛くなる。

自分にまだこんな感情が残っていたのかと自嘲しながら、ゆっくりと目を開けた。

金髪の美しい女性がこちらをのぞき込んでいた。

紫色の瞳と目が合ってパチパチと瞬けば、彼女は柔らかな笑みを

浮かべてなにかを言った。

けれど、私の耳には聞き慣れない音として伝わり、意味が読み取れない。

そもそも、この女性はだれだろう。

それを訊こうにも、どうしたことか、私の口からは「あー」だとか「うー」だとか、なぜかうめき声のようなものしか出なかった。

なぜだ？

その疑問はすぐに解決した。

こちらをのぞき込んできた女性の瞳に映った私の姿。それはどこからどう見ても、赤ん坊だったのだ。

* * *

どうやら、私はこの女性の子供として転生したらしい。

『らしい』というのは私がまだ実感できていないせいだ。

確かに、手を動かせば紅葉のような小さな手が動き、しゃべろうとすれば舌つ足らずな意味不明な音しか発声できない。

……この小さく、脆い身体は、本当に私のものなのだろう。

だからといって、すぐにそれを受けられるかと言えば、そんなはずはない。

認めようとする意思を、『私』の記憶が邪魔をするのだ。

そう簡単に違和感を消すことなどできはしない。

だが、精神とは違って身体のほうは正直である。
空腹になれば無意識のうちに泣いて主張し、少しでも疲れたらすぐに眠る。

我ながら、よく寝る子だったように思う。

おそらく、未熟な肉体と脳に『私』の前世の記憶は大きな負担だったのだろう。

たくさん睡眠を取ることで膨大な記憶を整理し、わずかでも負担を軽くしようという生命維持活動の根本的な反応だったのかも知れないと、のちに私は考えた。

そんなわけで、食事をするとき以外はほとんど寝ていたため、母や侍女にとっては手間がかからない子供だっただろう。

前世で生きていた世界とは違うのか、言語はまったく分からない。分からないが、彼女が私に呼びかける声は優しさに溢れ、心地よいものだった。

だから、私は思い切ってそれに甘えることにした。

今度こそ失敗しないと、心に決めて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0870ba/>

異端の魔女の物語

2012年1月4日01時52分発行